

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 橋本正巳
 新潟県山岳協会
 上越市南城町2-3-37
 TEL 025-524-7215

事務局 諏訪恵一
 長岡市高畑町610-10
 TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集
 委員会代表 浅野巨寛
 TEL 0258-52-3998



クライミング入賞の成年男子

第61回兵庫国体山岳競技が9月30日(土)から10月3日(火)の日程で、神戸市で開催された。新潟県からは成年男子に加えて、7月末長野県の北信越ブロック大会で代表権を獲得した成年女子と少年女子の3チームが参加した。

成年男子と成年女子は、クライミング競技で共に予選を

勝ち抜いて決勝に進み、それぞれが7位になった。少年女子は、今回も縦走競技で健闘して6位入賞を果たした。

10月2日(月)小雨、成年女子と少年女子の縦走競技が行われた。JR新幹線新神戸駅近くの布引中学校から、六甲摩耶山山頂掬星台に登山道を駆け上がるのが、今回の縦走コースである。距離が約6.7km、標高差約600mで、ずっと登りが続く。成年女子の負荷重量は12kg、少年女子のそれは8kgであった。10時丁度少年男子チームも加えて一斉にスタートした。

少年女子小林祐佳選手は個人8位でゴールに入った。同じく瀧澤三咲子選手は13位、チーム成績は6位になった。

成年女子中山就実選手は22位、

片桐麻由子選手は30位、チーム成績15位である。この日、成年男子はクライミング競技の予選があった。平嶋元選手は12位、岩橋由洋選手は13位と同じような力を発揮して、チーム6位、予選を通過した。

前日の10月1日(日)晴れ、ポートアイランドの体育館内に仮設された4面の人工壁で、成年女子と少年女子のクライミング競技予選が実施された。午前最初の少年女子の部では、塚本菜々香選手が18位、小林祐佳選手が24位と健闘したが、チーム11位であった。これでも昨年、一昨年より順位が上がっている。成年女子春日未奈選手は11位、片桐麻由子選手は15位で、チーム6位になった。同日、成年男子は縦走競

技に出場した。樋口大棋選手は17kgの背負子を担いで、44位でゴールした。平嶋元選手は85位、チームとしては33位であった。

10月3日(火)晴れ、クライミング競技決勝の日である。成年女子春日選手と片桐選手は3番目に登場した。ふたり同時に登り始めたが、片桐選手は数手登って、競技を中止した。足をかけたホルルドが回転したというアナウンスが流れた。春日選手はそのまま登り続ける。だぶん、ひとりだけで登る事態になって心理的動揺が生じたはずだ。昨年の岡山国体では、成年男子佐賀県チームで同じテクニカルインシデントがあった。片桐選手は次のチームの競技が終わった後で、改めてひとりでもルートを登った。春日選手15位、片桐選手9位、予選8位の奈良県に抜かれてチーム7位であった。その後始まった成年男子も新潟県は3番目に登場した。平嶋選手、岩橋選手ともジャパンカップ等の大会出場によって、名前と顔がクライミング関係者に知られるようになり、新潟県のトップとか全国でも上位選手といっ

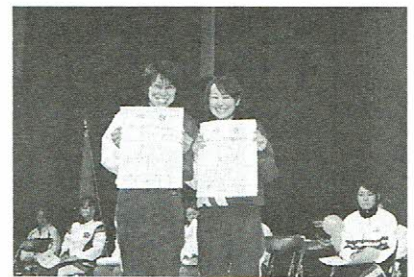
第61回のじぎく兵庫国体開催される

山岳強化総括責任者

渡邊正之

快挙、3種別で入賞

少年女子 縦走6位
 成年女子 クライミング7位
 成年男子 クライミング7位



クライミング入賞の成年女子

たアナウンス紹介が耳に入る。平嶋選手が9位、岩橋選手が13位、北海道に続いて7位となった。決勝成年男子グレイド5-13b、女子5-13a、9m部分から上の傾斜角度は、男子150、女子145。と表彰式講評で発表された。

韓国 昌元山岳会・新潟県山岳協会

姉妹山岳会締結25周年

記念訪韓 日程決まる

1981年5月に韓国の昌元山岳会と新潟県山岳協会が姉妹山岳会として締結して25周年を迎えた。それを受けて今回は婦人委員会が主体となって計画されたもの。日程としては、11月11日～11月13日の予定で、11日午前9時30分新潟空港より大韓航空でソウルへ出発する。12日近郊の道峰山へ登山・下山後、親睦パーティーの運びで13日夕方新潟空港へ帰着の予定。参加人員15名メンバーは次の通り。

○阿部信一(新潟山岳会)

佐藤貞一郎(荒川ワンダーフォーゲル) 矢沢和夫(下越山岳会) 井口光利(見附山岳会) 本田仁(亀田山岳会) 西山潤一(亀田山岳会) 多賀秋二(新潟望遠) 高橋欣弘(長岡ハイキング) 仁部哲雄(新潟山岳会)

○山田智子(越後山岳会) 浜田啓子(越後吉田山岳会) 井口礼子(見附山岳会) 佐藤房子(長岡ハイキング) 外川邦子(新潟望遠) 佐藤和子(長岡ハイク)

(順不同 敬称略)

石田国夫さんを偲んで

新潟県山岳協会名誉会長

室賀輝男



監製褒章受賞の頃の石田氏

新潟県山岳協会参与で元常務理事自然保護委員長を務められた石田国夫氏は、平成十八年九月十九日午後五時二十分入院先の糸魚川病院で心臓病のため逝去された。行年七十六歳。

石田氏は学校卒業後、昭和十九年四月国鉄(当時)に入社。昭和六十三年四月まで、四十一年間糸魚川運転所に勤務。昭和四十七年には国鉄総裁表彰をうけるなど、列車運転一筋の人生で、日本海を眺めながら北陸線を直江津～富山間を姫川沿いに大糸線信濃大町まで、立山・剣などの北アルプス白馬岳から後立山連峰の四季の移り変わりを眺めての仕事で、登山の心が自然に芽生えたと語られていた。戦後間もなく再発した糸魚川山岳会に入会。その後上越地区の仲間と上越山岳会を結成、山仲間を増やししながら本格的登山が始まり、新潟県山岳協会との

関わりは昭和二十六年頃から、田原善治、長崎達男、内藤修氏等と妙高山・白馬岳等での国体予選会や県山岳協会行事に参加。地元山岳会員として設営や先導役をとめながら、徐々に頭角をあらわした。行動力と常に控え目な人柄を藤島玄氏に認められて、青年将校の一人として機会あるごとに山行で鍛えられ、協会の先輩との活動を通じてリーダーの素質を習得。生涯山から脚を洗うことの出来ない人物と藤島氏に認められ、昭和二十九年三月に日本山岳会に入会している(終身会員)。その後協会理事に推され、昭和三十四年選ばれて第十四回東京国体で監督として国体登山に参加。翌三十五年四月自然公園指導員の委嘱をうけ、後年昭和五十六年から平成二一年まで自然保護委員長をつとめ、白馬岳連峰での遭難予防防救助活動に地元山岳会員として積極的に協力。

酒を好み山を愛しつづけた石田氏を語るに欠かせない事は、協会の役員としての自覚と責任感の強い人柄で、在任中は可能な限り県内外の諸行事、会議には万障繰り合せて参加して居り、交通事情の悪い糸魚川から、しかも協会の財政上からすべてが自費参加で、県山協の顔として仁義を欠く事のない信念の人であった。コミニケーション活動で各岳連、協会からの信頼が厚く、関係機関との交流に大きく貢献された。県山岳協会を支えた功績は特筆される。協会主催の中国遠征等の海外登山にも進んで参加されたが、平成七年のカムチャッカ半島トルバチェク登山後に体調を崩され、その後入院を繰返されていたが、平成十七年一月監製褒章の祝賀会ではお元気で、五十余年にわたる山行は、奥さんのお蔭と数々の懐かしい思い出を語られ、更なる健康を祈念していたが、突然の訃報にまた協会の大事な星が消えて残念でならない。心からご冥福を祈ります。合掌。

山田智子さん

平成18年度生涯スポーツ功労者として 文部科学大臣表彰を受ける



指導中の山田智子さん

県山岳協会副会長・婦人委員会委員長として活躍されている、山田智子さん（越後山岳会）が平成18年度生涯スポーツ功労者として文部科学大臣より表彰を受けた。登山を通じて

「じた日頃の活躍と実績を認められたもの。10月3日東京虎ノ門で行われた表彰式に臨まれた山田さんは、「大変な表彰を受け、支えて下さっている大勢の方々に感謝あるのみです。その時その時を一生懸命私に出来ることでお手伝いしてきたつもりで、今後とも今迄同様頑張るしかありません」と喜びの感想をのべられた。

平成18年度 第一回理事会概要

平成18年9月23日（土）14：07～15：40
長岡市中央公民館 401教室
長岡市柳原町2-1 電話：0258-32-0437

◇出席者：室賀・橋本・山田（智子）・森・諏訪・七沢・本間・渡辺・浅野・嶋原・後藤（正弘）・北村・桜井・井・横山・真島・片桐（以上17名）

◇会長挨拶（橋本正巳）

議題1 平成18年度専門委員会前期活動計画

・後期活動予計画

（冒頭9月19日に、新潟県山岳協会の石田参与がご逝去されたことに対し、ご冥福を祈り、黙禱をささげた。）

◇総務委員会：現在、賛助会員は28名を数えた。全日本登山体育大会は申し込みなしで

参加しない。親睦登山は10月28日～29日に旧下田村で実行予定、登山は918mの白根山を予定している。来年の新年会は、1月27日（土）に新潟地区で計画したい。（七沢委員長）

◇指導技術委員会：9月18日に岩登り講習会を杉滝岩で実行した、32名参加。日山協指導員総会に参加。この中で検定基準が変わる見込みであり、対応したい。来年2月17～18日に冬山講習会を予定している、研修内容を検討したい。会場は未定。（嶋原副委員長）

◇遭難対策委員会：6月24～25日の日山協遭難対策委員会に出席、また総会にも出席した。7月23日に安全登山講習会を中高年登山委員会と共催で角田山を会場に実施した。一般参加も多数得た。また、11月12日に救急法講習会を燕消防署で予定している。（井副委員長）

設置の運動をしているが、その効果が出てきた。10月21～22日、秋の研修会を湯沢町高波ヒュッテで計画、横山講師により自然保護関係の講演会を予定している。22日は大源太山を登山する見込み。

◇中高年登山委員会：8月に遭難対策委員会と共催で安全登山講習会を開催。9月8～10日に日山協主催の安全登山講習会（立山）に参加してきた。15県29名の参加、内容は講師が23名でマンツーマンの講習会であった。（桜井委員長）

◇国体委員会：配布物参照のこと。委員長がマムートカップクライミング大会に参加のため欠席。4月23日に国体予選（クライミング競技）、ほかに縦走競技の予選会を実施した。7月末に北信越国体が長野県駒ヶ根市で開催され、参加。成年女子、少年女子とも1位を獲得し、兵庫国体参加資格を得た。成年女子チームは13年ぶりの参加。また、日山協国体常任委員に、森、稲田両名が新潟国体開催に伴い着任し、9月21日の常任委員会出席。9月30日～10月3日まで兵庫国体が開催される。

11月5日に国体報告会が新潟で実施される。11月北信越5県会議、2月に競技部講習会予定。秋田国体審判員に、稲田理事が着任する。（渡辺強化総括責任者）

◇クライミング委員会：欠席
◇海外登山委員会：小林委員長より電話があり、11月に入ったら中国・青海省登山協会との「兄弟友好協定締結15周年」について作業を開始することの事。記念祝賀会、記念トレッキングについては申し込みがあるが、記念登山の申し込みは現在までない。（山田副委員長）

◇婦人委員会：配布物参照。加盟団体にはがきで知らせたが、韓国・昌元山岳会との姉妹山岳会締結25周年にあたり、記念登山を実行する。これまでの経緯もあり、婦人部で計画した。11月11日（土）～13日（月）に実施するが準備の都合上、10月のはじめに申し込みをまとめたい。韓国トボン山（740m）に登る。現在、7～8名の申し込みあり。15人程度を目標としたい。（山田副委員長）

◇ジュニア委員会：4月23日に国体予選と平行に同一会場

でジュニアクライミング大会
 実行、これまでにない26名の
 参加を得た。8月に上位入賞
 者を富山県桜が池で実施され
 たJOCクライミング大会に
 参加、優秀な成績を収めた。
 ほかに2箇所ほどの大会にも
 出場した。新潟国体に向けて
 ジュニア育成に努めていく。
 (渡辺強化総括責任者)

◇会報編集委員会：毎月のニ
 ュースを発行出来ている。9
 月号も現在、印刷所に入って
 おり、来月はじめにお手元に
 届く見込み。(浅野委員長)

**議題3 2 順目新潟国体と
 2年後の北信越国
 体について**

大分国体より、クライミン
 グ改めリード競技となり、ボ
 ルダリング競技も導入されて
 くるため、審判員資格を改め
 るとともに、国体運営員資格、
 ルートセッターの資格を作っ
 て行きたい。秋田では、今日
 と明日に第一回基準会議が開
 催されている。また日程では
 リハーサル大会まで決まってい
 る。2 順目国体についての
 役員配置作業が遠藤副会長の
 仕事で進んでいる。今後、い
 ろいろな作業が予想されるの
 で、作業分担をよろしくお願
 いしたい。(森副会長)

議題4 その他

1. 中国・青海省登山協会
 兄弟友好協定15周年につい
 て

海外登山委員会より担当し
 てもらい、来年の夏に記念祝
 賀会・記念登山などの作業を
 進めていただきたい。前回10
 周年では、ガンシカ峰登山を
 実施した。登山協会では、郡
 海平秘書長はじめ、スタッフ
 も期待している。(片桐理事
 長)

2. 韓国・昌元山岳会 姉妹

山岳会締結25周年登山につ
 いて

先ほど、山田副委員長の発
 言もあり、当初より婦人委員
 会が実行しているので、今回
 も11月に計画を立て進めてい
 る。婦人委員会の報告参照。

3. 『日帰りファミリー登山』
 の調査・執筆活動について
 既報のとおり、上越地区を
 七沢委員長、中越地区を見附
 山岳会の井口さん、下越・佐
 渡地区を山田副会長にそれぞ
 れ取りまとめ担当をお願いし、
 現在調査執筆活動にある。原
 稿締め切りを10月末日とし、
 その後編集・校正を経て来年
 4月はじめには出版の見込み
 である。(理事長)

4. マムートカップ新潟大会
 の後援について
 前回も名義後援をしており、
 今回も同様に橋本会長にご了
 承をいただいた。国体委員長、
 ジュニア委員長も本日、この
 大会に参加している。(理事
 長)

5. 高体連・真島先生より発
 言：高体連・県総合体育大会
 を6月1日～3日に蓬峠で実
 施した。インターハイ全国大
 会が奈良県大峰山8月21日～
 25日に開催され、本県より中

央高校・県央高校・三条高校
 の3校が参加した。また、秋
 の県大会を9月21日～22日に
 粟ガ岳で実施した。なお、先
 般の県高体連顧問会議で、新
 潟県開催の国体への人的協力
 をすることを確認した。

◇ 終了挨拶(山田副会長)
 文責：片桐

**賛助会費
 のお願い**

- 新山協ニュース222号掲載の
 内容にて、賛助会員を募集し
 ております。
- 4月評議員会議事に申しま
 した今年目標達成が、皆様
 のご支援のお陰をもちまして、
 もう少しというところでござ
 います。各位におかれまして
 は、より一層のご理解と趣旨
 ご賛同の上多数のご入会をお
 願い申しあげます。ご入金さ
 れ、ご協力頂いた方々ありが
 とうございました。
- 記**
- 新潟県山岳協会事業**
- 1 国民体育大会山岳競技に
 関する事項
- 2 県体育協会登山部門に関
 する事項
- 3 日本山岳協会に関する事
 項
- 4 登山施設の改善促進及び
 技術指導に関する事項
- 5 遭難対策に関する事項
- 6 加盟団体の主管する事業
 に対する相互協力に関する
 事項
- 7 その他本会の目的達成に
 必要な事項
- ◆賛助会費
 年額10,000円
- ◆賛助会費の振り込み先口座
 ☆郵便振替 新潟県山岳協会
 ☆口座番号
 00650081120040
- ☆銀行口座の場合
 第四銀行長岡市役所前支店
 ☆普通預金 1179492
 名義は新潟県山岳協会
- 賛助会員入会のお礼**
- 次の皆様から、ご入会、ご
 継続を頂きましたので、ご報
 告させて頂きます。
- 上村虎男(十日町山路の会)
 山田智子(越後山岳会)
- *9月21日～10月20日現在の
 ご入会、ご継続状況です。
- (敬称略、順不同)
- 新潟県山岳協会
 会長 橋本 正巳
 理事長 片桐 一夫
 総務委員長 七沢恭四郎

越後の山に見られる 変種植物

むぎさび会 加藤 明文

◆スミレ 属 Viola
⑦ マキノスミレ



マキノスミレ
組倉山 5/5



母種 シハイスミレ
伯母子岳 5/2

本州の北日本に産し県内にも広く分布する。母種は西日本のシハイスミレ (violacea) 種名スミレ色ので、花は大差ないが葉は広い被針形～卵形で時々白斑入るのに対して狭い被針形で、先は尖る。しかも葉の裏はたいがい紫色となり一度見るとすぐ納得することができる。種名Makinoiで発見者牧野博士への献名。属名ビオラは英語ではViolet・バイオレットで紫の意。

『やぶ道⑤』持病

杉本 敏



高齢者社会の誕生と持続。特別な仕事はなく、年金はそれなりに受け取れる。若い時から働きずくめの生活で、自慢できるのは体力。それなのに時に身体が痛み、病院通いも生活の一部になってきている人達が多い。

毎日病院通いやら、隣のばあちゃんとお茶飲みも飽きがくる。こは自慢の体力で、自然相手に老春を楽しもうと、山登りやら山菜採りに励む御仁が増えてきた。どこそこの山へ登ってきた。山の収穫は何と何、の会話がはずむ。あの人が行ければ、おれもちょっと富士山くらい行ってみるか。なんて、夢を実現させてしまおうパワーの持ち主達。口先と頭の回転は元気である。

山を永く続けるには、やはり基礎的な山岳講座を一通り学ばないと事故になったり、危険からの脱出対応手段が思いつかなかつたりして、生死の境に遭遇する。一番困るのが、今自分が危険状態になっている認識の無い人達である。高山病になっていのに、登り続けようとする人。急斜面を前向きで下山しようとする人など。

そして私も山中で仲間迷惑を掛けて、登山の一線？を引退してしまつた。高血圧でありながら対策をとらず登り続けたら、心筋梗塞で倒れてしまつた。
持病があつたら軽く考えず、治療させる努力が必要である。そして山へ行くなら肥るな。水は飲め。山中で酒は飲むな。自慢の体力は過信するな。それから持病を怖がらず上手に付き合えば、きつと次の夢が咲かせるかも。

海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス

国土交通大臣登録旅行業第009号・IATA代理店 (株) 日本旅行業協会会員
本社：新潟県長岡市幸町1丁目3番5号

<http://www.uks.co.jp>

□長岡営業所 〒940-0084 長岡市幸町1丁目3番5号 ☎ (0258)33-7123
一般旅行業務取扱主任者 森 真樹
□新潟営業所 〒950-0916 新潟市米山3丁目2番11号 ☎ (025)246-2266
一般旅行業務取扱主任者 中島 豊

12月31日出発

新潟空港発チャーター便
のんびり過ごそう

台湾のお正月

期日 12月31日(晦日)～1月3日 4日間
費用 95,000円～158,000円

※詳しくはパンフレットをご請求下さい。

お問い合わせは (株)ユニオン航空サービス
本社営業所 0258-33-7123
新潟営業所 025-246-2266

行事案内

平成18年度

救急法講習会の開催について

初冬の北アルプスでは、また遭難が相次ぎました。少しでもこの様な事故を回避し、安全な登山が出来るよう、標記講習会を開催いたします。

日程 平成18年11月19日(日) 受付開始 8:30

講習 9:00~16:00

場所 燕弥彦総合事務組合

消防本部 吉田消防署

燕市吉田浜首408-1

☎0256-92-2200

(午後は弥彦山に移動)

内容 消防署職員による救急法講習会と、ロープによる簡単な救助法講習会

9:00~12:00

救急法講習会

消防署のカリキュラムに沿って進行 終了後、終了証の交付があります

12:00~13:30

移動 昼食

13:30~16:00

ロープによる救助法講習

ロープによる引き上げ、吊り下ろし方法

他、夏の講習会の復習
 装備 午前(各自用意) 三角巾 伸縮ストッキング ティ
 ピング TeeP (巾4cm程度)
 午後(各自用意) 皮手袋或いは軍手 運動靴 或いは登山靴
 ◇グループで用意 9mm ロップ (20m 1本) スリング (1.2m 2本 0.6m 3本) カラビナ 4枚 安全環付カラビナ 2枚
 * 装備の中で用意出来ないものがある場合申し込み用紙にチェック、記入して下さい
 他、筆記具 昼食 飲料水 雨具
 参加費 500円
 当日受付にて徴収します
 申込み 別紙申込書にて 11月13日(月)までに郵送又はFAXにて
 榎井利幸 0256-92-3168 (FAX・TEL)
 080-1147-3453 (携帯)
 〒959-0232
 燕市吉田東栄町32-13
 新潟県山岳協会
 会長 橋本正巳
 遭難対策委員長 榎井利幸

編集こうき

▲先週は土樽で開かれた自然保護研修会へ参加してきた。横山隆一氏の森を再生して緑の回廊を広めるプロジェクトの講話だった。自然保護を志す人たちにあって、このような実現性があり夢のもてる計画ほど気持ちの明るくなることはない。

▲今夏のあの暑さは何処へいったのだろう。さすがに10月も20日を過ぎると朝夕の寒暖の差で里山も色づき始め、錦秋に彩られるのも間近だ。だが今夏の猛暑は山の恵みに大きな影響をあたえたようだ。県内でも熊の異状出沒で人への被害もあいついでいる。だが発見、即駆除される方が多い熊もなんとも憐れだ。だが人間の叡智で荒廃した広葉樹林や森が再生され、野生動物たちとの共生できる世界は必ずくるにちがいない。

▲「イーハートボーの世界を提唱した宮沢賢治は童話「なめとこ山の熊」の中で心温まる熊と猟師の交流を描いているし、鈴木牧之も北越雪譜では、熊穴に落ちた村人を助けた熊を義獣と呼んでいる。

(会報編集 浅野)

山への想い

山は秋から冬へ駆け足

県内岳人の冬山装備をアシスト



登山・アウトドアの専門店

ICI 石井スポーツ 新潟駅前店

新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025) 243-6330(代)

登山・ハイキング・クライミング
 テレマーク&山スキー



パーマーク

長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)
 TEL0258(37)1200・FAX0258(33)1164
 ●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

http://www.parrmark.co.jp